麦作情報（小麦） R9年産 No.3

令和８年 10 月 27 日
湖北農業農村振興事務所 農産普及課
（湖北農業普及指導センター）

「適期播種」により病害や凍霜害を防止しましょう

1.「びわほなみ」の播種適期

早播きは、黒節病や縞萎縮病の発生を助長し、大幅な収量低下につながります。特に、過去にこれらの病害が多発したほ場では、早播きは絶対に避け、適期の範囲内で遅めに播種しましょう。

また、秋播性の低い「びわほなみ」は、暖冬年では幼穂形成期や茎立ちが早まり凍霜害が発生しやすくなりますので、適期播種に努めましょう。

地域	播種適期
湖辺・平坦	11 月５日～11 月 20 日
中山間	11 月５日～11 月 15 日



黒節病
（３月中旬頃の状況）



凍霜害

2. 播種作業での注意事項

①「びわほなみ」の播種量は 8kg/10a

「びわほなみ」は分げつが旺盛な品種のため、適量播種を心がけましょう。

・目標苗立数：150～200 本/㎡

（条間 25cm の場合、1m あたり 40～50 本程度が目安）

※毎年必ず種子更新を行ってください。

②播種精度を高める

毎年、浅播き（覆土が不十分）による土壌処理除草剤の薬害や、深播きによる出芽不良・苗立ち不足が原因で、減収しているほ場が見られます。排水対策を徹底し、土塊を細かく砕いて丁寧な覆土を心がけましょう。また、播種機を調節して、深播き・浅播きを防ぎ（播種深の目標は約 3cm、土壌水分が多めの時はやや浅めに設定）、出芽の安定を図りましょう。

3. 雑草対策の確実な実施

①播種前の耕起と砕土の徹底

播種前に発生した雑草は、播種直前の丁寧な耕起等でしっかり防除しましょう（耕起で抑えきれない雑草には、非選択性除草剤を活用します）。 また、播種までに土壌をしっかり乾燥させ、土塊を細かく砕くことで、土壌処理除草剤の効果アップにつなげます。

②雑草の多いほ場では体系防除を実施

播種後土壌処理剤（11 月） ⇨ 麦２～４葉期処理剤（12 月～1 月） ⇨ 広葉雑草対策剤（2 月末～3 月中旬）

4. 排水対策

降雨後に排水口に向かって排水できているか確認し、不十分な場合は補修しましょう。



排水溝は尻水戸にしっかり繋ぐ



溝の泥はしっかりさらうこと